

新基本構想の将来像について

1 策定委員会の主な意見

前回の全体会において、将来像については、自然、心のふれあい、住みよさといった要素で構成することについて了承されたが、文言については、下記意見を踏まえ、事務局により再検討することとされた。

(1) 水と緑（自然）

- ・ 「水がゆたか」という言葉は水害のイメージを連想させるため、適切ではない。「水と緑と調和した」などの表現にするべきである。また、水と緑という古いイメージではなく、未来的なまちを目指すべきである。
- ・ 子どもが心豊かに育つには水と緑、土、太陽が大事な要素であり、「水と緑ゆたかな」を残すべきである。また、水辺に恵まれた環境を災害の視点からも活用するべきである。

(2) 心のふれあい

葛飾は「人情」のイメージが強い。「人情」を未来の子どもたちに残していくべきであり、基本構想の中に位置づけるべきである。

(3) 住みよさ

「住みよいまち」という表現は居住者の視点に留まっており、居住者以外の広い意味で区民を捉えるのであれば、「暮らしやすい」「やさしいまち」などの表現にするべきである。

2 新基本構想の将来像（案）

上記意見及び策定委員から提案のあった意見を踏まえ、新基本構想の将来像（案）を下記のとおり整理した。

【将来像（案）】

「区民とつくる、水と緑と人情かがやく 暮らしやすいまち・葛飾」

（説明）

河川、美しい花や緑に囲まれた自然環境、下町人情に支えられた人、地域、文化、産業などの本区の特性を磨き上げ、輝かせながら、誰もが生涯にわたって安全・安心・快適に、自分らしく暮らし続けられるまち「葛飾」を実現する。

【参考】

中間のまとめ案

「区民とつくる、水と緑ゆたかな心ふれあう住みよいまち」

策定委員から提案のあった将来像案

「みんなでつくる、住みよい未来都市 葛飾」

「みんなでつくる、水と緑と調和した心ふれあう住みよい葛飾」

「自然と人情あふれた住みよいまち」